

ナースのベストセラー「勤務表」 気持ちが変わる、職場が変わる勤務表作りのコツを教えます!

2017年3月号(2017年2月15日発行) 発行所: 株式会社ナース出版部 定価: 1,000円(税別)

Nursing BUSINESS

チームケア時代を拓く
看護マネジメント力UPマガジン

2017

3

March

vol.11

ナーシングビジネス

第1特集

師長の腕の見せどころ! 「しあわせ」勤務表 作成メソッド

メディカの専門誌
スペシャル合同企画

ちょっと作ってLINE・Twitter・Facebook...
患者情報漏れていない?

ナースが知っておくべき
SNSトラブル予防法

特別対談 坂本すが×松村啓史
看護管理者に贈るメッセージ

いのちと向き合う現場から
喪失を乗り越える——支援者の存在の大きさ——

師長のための教え方講座

看護師長さんが実践で培った*秘めたる臨床の知。教え方のコツ

実践的判例読みこなし術

看護記録が重要な証拠となった事例から
看護師がなすべきことを考える



理想の勤務表を支える 職場環境の構築

—多様な働き方を受け入れるために—



公益財団法人とくまの会常務理事 看護部長 森本 真希子

埼玉県川口市生まれ。看護学校卒業、元々の公立病院で27年間勤務。その後、看護部長→副看護部長を歴任。看護部長として14年間勤務後、14歳で長男が誕生。

スタッフの希望すべてを取り入れた「完璧な」勤務表ができあがったとしても、実際には急な変更がつきもので、なかなか理想通りにはいかないものです。この「理想」を現実にするためには、さまざまな手助けや、多くの支えが必要です。

看護部にとって、勤務表は「永遠のベストセラー」ワクワクしたり、ため息をついたり、穴が開くほど見ても見飽きない…。しかし、作成する部長にとっては、管理者として相当重い業務ともいえるでしょう。それだけに、勤務表が仕上がったときの解放感には、格別のものがあります。

私は部長として16年間、勤務表を作成してきました。そのなかで、最近この勤務表を構成するメンバーの環境が、大きく変化していると感じています。

私が部長時代のスタッフは、ほとんど8時間フルタイムの働きで、夜勤ができて当たり前。そのような勤務で働くために「家来」という固定した支援体制があり、それによって勤務が成り立っているという背景がありました。

しかし、今はどうでしょう。子育て世代の家族環境によって、短時間勤務や、夜勤はできない・したくないというスタッフが増えるなど、時代とともに働く人の価値観が変化するなかで、勤務表もまた変化を余儀なくされてきました。多種多様なニーズを持つ人材を、ひとつの勤務表のなかに埋め込み、ジグソーパズルのような勤務表を完成させなければならぬ。これが勤務表作成を難しくしている要因です。

さまざまな働き方の雇用が 増えざるを得ない現状

当院は、急性期病床120床（10：1）、療養型病床120床（20：1）の計240床。看護単位は4単位。病床稼働率はほぼ90%を超えています。腎・泌尿器科を中心に、透析患者数は入院、外来を合わせ550名（透析ベッド153床）、ロボット手術や生体腎移植なども行う、福島県南端の巨病院に位置する中核病院です。

設定では、看護師不足を解消する手立てとして、夜勤制限のある看護師、短時間曜日限定勤務の看護師（外来は5割）、フルタイムでは働けない看護補助者、シフト交換など限定した業務を行う短時間勤務の看護補助者、夜間短時間勤務の看護補助者（透析センター）など、さまざまな働き方を求めるスタッフの雇用を進めてきました。とくにこの2年間、潜在看護師の掘り起こしも含め、夜間支援センターを開設するなど積極的に雇用を行ってきました。

このような環境下での勤務表作成は、決して容易ではありません。管理者として考える、勤務表のあるべき姿とそれを実現するための方法について、本稿で述べたいと思います。